さっぽろ あごら

郵便振替 02710－3－570 あごら札幌

No. 224

あごら札幌 連絡先
細田 （011）
644－2927

今月通信担当
高橋芳恵

1999. 8. 13 発行

通信購読料 1,200円 （年間）

《今月の内容》

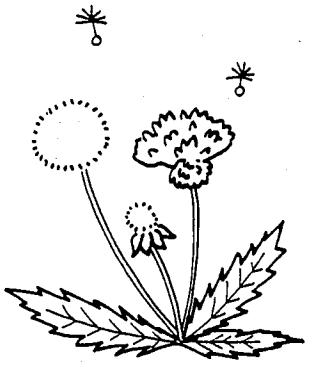
回想 その1 ……1,2,3
便利かゝ一番 ヒトニ番 ……4,5
魔女会議 ……5
本と暮らす(6)……6,7
情報 ……8

回想 －その1－

K. S

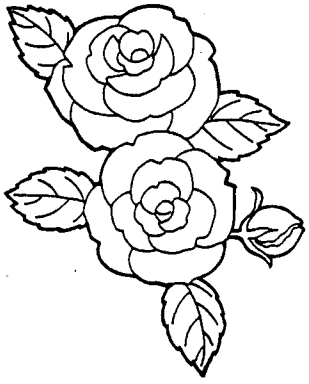
いつまで経っても掃除は終わらない。洗面台や冷蔵庫、洗濯機などの側面を磨き粉を使ってこすると驚くほどきれいになる。壁やドア、電気製品に家具やり出したらきりがない。細かいところや隅はいらなくなった歯ブラシでこする。今日の道内は軒並み最高気温を更新する市町村が続出しているくらい暑いので汗がこぼれる。いままで、研修にかこつけて札幌に行ったり、山登りをしていたつけをいま払っている。こんな努力をせずにきたから離婚という結果に終わったのだろうか。家庭や家族を見たくないから目をそらし、外に目をこらしてきたからか。

最初の夫は、仕事を持ち帰り夜になって始める日が続くと「仕事は辞めろ」と言った。居眠りしながら新聞を読んでいると電気を消した。疲れているのがかわいそうだから出た言葉だといわれても、「私のことが心配なら見当外れのやさしさよりも、そのぶん家事を手伝ってよ」という私の気持ちには反応しなかった。「今の仕事を辞めたら、家計のためにパートをしてほしい」という都合のよい注文も出した。育児休暇もない頃のこと故、通勤用の自転車の前の椅子に真ん中の子どもを座らせ、後ろの椅子に上の子を座らせた後、前のカゴにおしめがいっぱい入った袋をのせて、下の子をおんぶした私が運転して、２つの保育園に子どもを預け出勤した。始業時刻に間に合うように、そして保育園の閉園時刻に間に合うように必死で自転車をこいだ。（このため当時は痩せて身が引き締まっていた。）



急な発熱で保育園から呼び出されることもあったし、伝染性の病気の後は遠い病児保育室にタクシーで通った。転勤があれば住居も保育園も移すなど、なんとか仕事を続けて来た。なのに、子どものために休みひとつ取ったことがなく、資格取得の勉強をするため家事はできないといって何もしない夫は、「普通の家庭は仕事から帰ったら夕食の用意もできているし、風呂も沸いているのに、うちは夕食も風呂もこれからだし、３人の子どもはギャーギャー泣く」と不満を口にした。なけなしの貯金をはたいて頭金とし、マンションを購入して最終的に家を出た時、子どもは小１と年中と年少だった。共働きなのに家事をしない夫という存在は目にするだけでも神経に障った。幸い、収入は自分一人で充分あったので、別居後約１年で離婚した。養育費も慰謝料も一切もらわなかったが、定職がなくなり、教育費がかかる今から考えれば子どものために少しでももらって将来に備えておけばよかったと悔やんでいる。今でいうリストラ離婚とはちょっと違い、毎日の生活の中で恨みが積み重なっていった結果だと理解している。離婚に関し夫との間には負い目はなかったけれど、職場では嫌な思いもした。子どもも精神的にダメージを被ったことは否定できない。

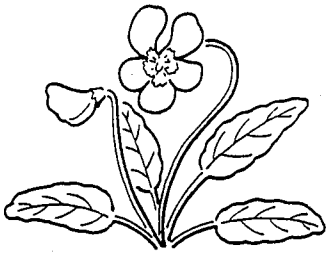
次の結婚は子どもが小６、小３、小２の暮れも押し詰まった頃、唐突に申し込まれた。「恋愛感情は全くないし、生活には困らないし、家もあるから」と断り続けたが、「思春期を迎え難しくなるであろう子どもには父親が必要であり、自分は家庭教師のアルバイトもずっとして来たから教育には自信がある、北海道で新しい生活をしよう」と繰り返し訴えられ、誠実な印象を受けた。仕事の後、ほとんど毎日その話を聞かされ、それまで考えてもいなかった専業主婦の道を歩むのも悪くないかもと思えるようになった。２月に結婚の届けを出し、子どもとの養子縁組も終え、３月いっぱいで退職し、あこがれの北海道に引っ越して来た。



「ちょっと違うぞ」と思い出したのは、そのこ

ろ話題になっていた『イエローキャブ』の事で言い争った頃からだったろうか。この人とは話し合いにならない、妥協点はない、一致点もないから消耗するだけだとの思いが募った。何回か話が食い違い、精神的にも経済的にも頼れないとの印象を強くし、第４子を生んだ２カ月後から新聞配達を始め、約半年後からは夜２時間のスーパーのレジのバイトも加えた。また、マンションを売却し、退職金と併せてある程度の貯金があったので夫の勧めもあり、住宅を取得した。頭金だけでなく、毎月貯金で家計を補ってきたが、３人の子どもを連れてきたのだし現実にお金もあるのだから当然だと納得していた。しかし、住宅の取得に至るもろもろの過程とその後隣地に建ったアパートの建設等に関連し、不信感が募った。子どもに対しても「お前ら（あいつら）」呼ばわりをされ、期待していた学業のほうもさっぱり見てくれなかった。私も子どももないがしろにされ、騙された気分になったが、帰る場所も仕事も無かった。

一番下の子どもが１歳になる頃自分が希望する分野のフルタイムの仕事が見つかった。仕事を始める前に「私も仕事をするのだから家事の分担をして欲しい」と申し入れたが、「自分はしない。できないなら家政婦を雇え」といわれた。約１年で解雇に等しい辞めさせられ方をし、再就職にも失敗し、実務を身につけるため下３人の子どもを連れ札幌に出て行った。札幌へ行く前から、資格の取得は割と順調に進んだが、実務経験を積むための就職先が無かった。経緯は以前にも書いたが、だらだらと貯金の流出が続くので、希望する職種につけない焦燥感もさることながら「いずれ無くなるのなら（これまで家族のために使ってきたが）自分のためにも貯金を使いたい」との思いが押さえ切れなかった。

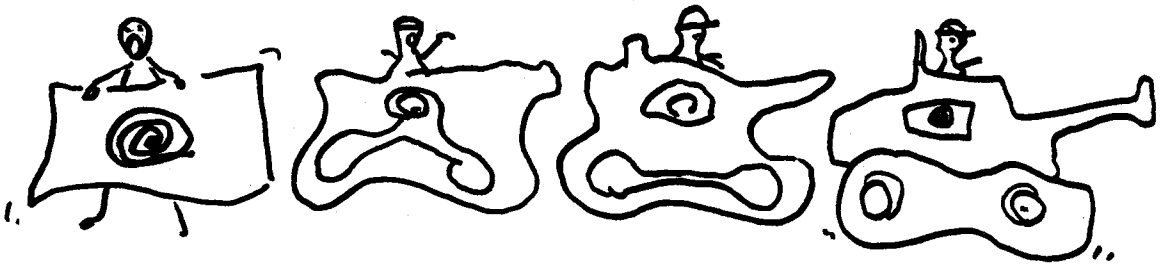


１年半で札幌から帰り、自営業を始めたが収入は余りなかった。私も子どもも気持ちは夫から離れており、家庭内が荒れていた。浪人中の長女は２年間帰って来ず、長男は高２で中退した。そして今年の３月離婚の話し合いを始めた。

これでいいのか
便利が一番　人間（ヒト）二番

タカハシ・ワタベ

アネキ：国旗・国歌法制案の国会可決も時間の問題みたいね。
アニキ：もっと議論を！、なんて声は、結局国会まで届かないみたいだね。
アネキ：党利党略だけで動いているセンセイたちにとっては、些細なこと？
アニキ：つい最近、この問題の国会の委員会審議を聞いていて、ほんと、ずっこけた。
アネキ：各政党推薦の学識経験者なる方々の意見陳述のこと？
アニキ：特に某党推薦の某大学教授には、笑うしかなかった。
アネキ：法案化には、賛成でないらしいけど。
アニキ：そう。ところが、現状を考慮すると法案化すべし、だと。
アネキ：どういうこと？
アニキ：学校現場の混乱を避けるためには「法制化が最良の選択である」そうだ。
アネキ：地域、学校ごとに繰広げられている議論は、単なる「混乱」なわけね。
アニキ：日本国憲法にある「平和」の希求を曲解してると思うんだけど。
アネキ：そうか、今まで、各校で積上げてきた議論はムダ、もう打ち切りましょう？
アニキ：そのとうり！校長さんに「葵の御紋」をさし与えて、、、
アネキ：「これが目に入らぬのか？ 法律違反、無用の議論はもう許さぬぞ！」とね。
アニキ：笑ってしまったと言ったけど、本当は“ぞっ”としたね、こんなに暑いのに。
アネキ：そんな議論が、国会で真剣に交わされるほど、学校は変わってしまったのね。
アニキ：当事者能力を、完全に放棄したわけだ。しかも、自ら望んでだよ！
アネキ：考えるのは、イヤ。議論するのも、イヤ。何でも、決まりどうり、さっさと。
アニキ：いったい、学校って何するところになるんだろう？
アネキ：少なくとも、自由と民主主義に基づいた云々を看板に掲げてたはずだけど。
アニキ：でも、肝心の教育に携わる人たちが、面倒？がイヤダ、イヤダでは。
アネキ：今回のことで、明確になったわけけね。もう、建前も本音も区別なく、、、
アニキ：法律を始めとする、あまたマニュアルの杓子定規的効率強要法機関化。



アネキ：ぞっとしたという意味が分かったわ。便利一番・子供（ヒト）二番ネ。
これまでも、便利？だからと男女別名簿にしたり、管理しやすいからと
障害児を囲い込んだり…

アニキ：そう、今もっとも危機に瀕しているのは、子供たちを取巻く状況だよね。

アネキ：マニュアル人間に教育された子供たちは、当然、　、　、

アニキ：もはや価値観の多様性だとか、個性の尊重なんか、ただの言葉のアヤ。

アネキ：でもね、そんな状況をつくっている私たち一人一人の問題でもある？

アニキ：そう、実際、学校ばかりを批難していても始まらない。学校も世の中の
一部分。

アネキ：マニアル化は、別に学校だけのことではないし。結構簡単便利はみな好
きだから。

アニキ：先ず、内なるマニアルを点検しなくちゃ。

アネキ：内なるマニアルって？

アニキ：例えば日常、何気なく子供たちに、あーだ、こーだと言ってることさ。

アネキ：大人の権威、価値観を押し付けてないか、点検せよと言うことね？

アニキ：互いに、相手の考え方を尊重しながら共存するっては、存外骨が折れる
ことだよ。

アネキ：強権発動の誘惑に負けそうになる？国会議論を笑ってられないわね。

アニキ：今こそ、われらは試されているのだと、強く思う次第です。

アネキ：私も、大いに自からを試し鍛えるために、またあちこち旅してきます。

（7月下旬、記）

第3回 魔女会議のご案内

新ガイドライン・ヒヒル・キミガヨ・トーチョーホー　コリャコリャ
今は戦後ではなく戦前であると誰かが言ってた。
自分の生活と世の中を見すえて、何でこうなるの、と考えてみよう。
魔女会議は札幌・軽(コンサートとお喋り)そして又、札幌と3回目。
軽からも苫小牧からも集って会議です。今回はアレンさんもGestに
日本とアメリカの子供や女性に対する暴力について話しあい、トレーニン
グもします。世の中お金だけど、ホーキーの使い方をアレコレ考えよう！

8月16日(月) 札幌市女性センター 第1和室

10時～12時　魔女の報告と今話したいこと。
12時～1時　ランチタイム（じょじょのコーヒーとおにぎりなど500円）
1時～4時　アレンさんとトレーニングなど

会場費をアレンさんのカンパ含め 1000円

連絡 谷砂子
011-664-0632

本と暮らす

小松　ともみ

(6) 老親の介護で力尽きるまえに

「老親の介護で力尽きるまえに」　門野晴子　著
学陽書房　刊

現在、私たちは３世帯隣居・バリアフリー住宅に住んでいます。この家を建てるにあたっては、土地の取得から設計の段階でたいへんな労力と時間をかけ、工夫をこらしました。というのも、札幌市の福祉タクシーチケットは１区間分無料の券が最高でも年に６０枚支給されるに過ぎないので、立地条件がわるい（？）と通院するだけで経済的負担が大変だということとか、１００万単位の金がかかる大規模な家屋改造をしないと老人・身体障害者が生活できない欠陥住宅があまりに多すぎること等を見聞きしていたからです。ハードがすべてじゃないけれど、ハード面の整備だけで介護する側の苦労が相当違うんですよね。

ちなみに、某「木の城」をはじめとする１階がコンクリート車庫の家は、あの外階段だけでもうバリアフリーじゃありません。段差解消機をとりつけるには段差が大きく、ホームエレベーターなんてばか高いしろものをとりつけるにもスペースが配慮されておらず、「建物は１００年もつかもしれないけれど、人間は１００年もたないね」とは私の同僚のリハビリ医のことばです。それと、ユニットバスは絶対だめです。障害の程度と性質によって手すりが必要な場所などが違ってくるのに、あとで改造できないからです。さらに言えば、業者がバリアフリー仕様と称している住宅のトイレと寝室との位置関係や間の廊下は、たいてい車イスが動けない仕様になっています。

私の母は３０年以上リウマチを患っており、今春身体障害者手帳を取りましたが、設計の段階で、手帳を取る状態になるのも時間の問題だろうと思われました。そのことを彼女も自覚していたので、これから起きるであろう事態を予測して「ここは予算との関係でこうする」と妥協しつつ、どうしても譲れない部分のハードは整備しました。困ったのは、つれあいの両親達の住居部分です。糖尿病（義父）と高血圧（義母）を患っているとは言えまだまだ元気な人達ですから、「将来こうなるかも」なんて予測してトイレスペースを大きくとる（手すりが付けれて車イスが入れる幅にする）のさえ抵抗があり、水回りの設計は数回変更しました。

そうこうして来たるべき介護地獄にある程度備えたつもりだったけれど、まだまだ甘かった！　この本を読んでソフト面の整備でも相当の労力と時間が必要なことを再認識しただけでなく、根性と気力が必要なことを発見しました。なんといっても行政サービスを利用するには、役人と怒鳴りあう根性と不合理や侮辱に負けずに「闘い取る」気力が必要なんですねえ。これがまだ、介護保険が導入されていない現状なんですから、これで「現在、特別養護老人ホームに入所している老人の約３分の１が「要介護状態ではない」と判定されるか利用料を払いきれずにホームを追い出されるだろう」と囁かれているような現在計画されてる介護保険導入後はどうなるか、推して知るべしです。

税金を払っている私たちが税金の使い道をしっかり監視して、国レベルでも自治体レベルでも選挙で審判を下さないかぎりは、根本的解決はないんだろうなあ。

♀♀♀♀♀　　I N F O R M A T I O N　♀♀♀♀♀♀♀♀

♀　8月16日（月）　魔女会議　　詳細は５ページ　♀

♀　8月22日（日）　13:30　　かでる２・７　820B研修室　♀

♀　　　　“どんなに障害が重くても地域の学校へ”　♀

♀　　　　第１回、連絡会議総会　♀

♀　8月28日（土）　13:30～16:00　　自治労会館３Ｆ　♀

♀　　　　浅倉むつ子さん講演会　♀

♀　　　　“私たちの手で男女平等条例をつくろう”　♀

♀　　　　連絡先；私たちのアクションプランTel 050-282-8585　♀

♀　9月２日（木）　18:00～　札幌市女性センター　中央区大通り西19丁目　♀

♀　　　　“コンピューター2000年問題と原発を考える”　♀

♀　　　　連絡先；谷百合子（Tel:664-0632）　♀

♀　9月25日（土）　13:00～16:00　札幌市女性センター　♀

♀　　　　“女性とエンパワーメント”…心の力のみなもとへ…　♀

♀　　　　講師：森田ゆり　　定員：50名　　参加費：4000円　♀

♀　　　　連絡先；ネットワークＣＡＰさっぽろ(Tel:721-7834)　♀

♀　9月25日（土）　札幌国際プラザ５Ｆ（中央区北１西３）　♀

♀　　　　“ﾊﾝﾄﾞ ｲﾝ ﾊﾝﾄﾞ　ＳＰＲの１０年”　♀

♀　　　　ゲスト；スセット・ローホ（ﾌｨﾘﾋﾟﾝ､ﾊﾞﾗﾝｶﾞｲｷｬﾌﾟﾃﾝ）　♀

♀　　　　　　松井やより　♀

♀　　　　連絡先；ＳＰＲ牧下徳子(Tel:251-7834)　♀

♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀♀

あとがき ♂♀♂♀♂♀♂♀♂♀♂♀♂♀♂♀♂♀♂♀♂♀♂♀♂♀♂♀♂♀♂♀♂

今年は天候もチョット変、涼しいはずの北海道が日本列島で一番暑いなんて！！

…そして、前村山総理以来、悪法何でもあり、の国会。

わたしは？というと、あまた周りの難問題にひたすら目をつぶり、今年１年の自由時間をフルに活用？すべく旅の後編に向けて準備中。相棒は見つからないまま見 切り発車の一人旅になる模様。元気に帰って来れたら、またお仲間にいれて下さいませませ！！